

韓屋観光の現状とこれから

—良洞マウルと河回マウルを中心に—

礒崎敦仁研究会
法学部政治学科4年
林 慧

目次

序章

1. 韓屋について

- (1) 韓屋の概要
- (2) オンドル
- (3) 対象地の選定

2. 慶州・良洞マウル

- (1) 良洞マウルの概要と特徴
- (2) 観光地としての良洞マウル
- (3) インタビュー

3. 安東・河回マウル

- (1) 河回マウルの概要と特徴
- (2) 観光地としての河回マウル
- (3) インタビュー

終章

補足資料

参考文献

序章

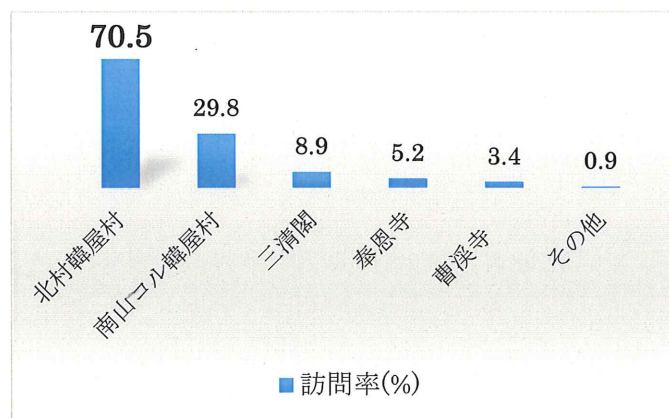
私は韓国の伝統家屋である韓屋に興味を持ち、韓国を訪れるたびに韓屋が多く残されている地方に足を運ぶ。韓屋に興味を持ったのは、ソウルの北村にある韓屋マウルを訪れたことがきっかけだ。今は原宿の竹下通りのように混雑する北村だが、当時は行き交う人も少なく、落ち着いたたたずまいの韓屋が非常に魅力的に感じられた。

北村韓屋マウルは、韓国のソウル特別市鐘路区にある韓国伝統家屋である韓屋の密集する地区である。北村韓屋マウルについて、久隆浩（2013：153）¹は次のように述べている。

北村韓屋村にはかつて一、五〇〇棟もの韓屋が軒を連ねていたが、現在は九〇〇棟あまりに減少している。しかし、ソウル市街にあってこれだけまとまって韓屋が集積している地区は他にない。同じ韓屋村と名がつく南山韓屋村は、ソウル市が首都防衛司令部の土地を買い受け、市内にあった五つの韓屋を移築してつくったテーマパークであるのに対し、この地区にはしっかりと住民が居住し、生活そのものも守り続けている。

図 1 のソウル市庁の「伝統文化施設訪問形態」の統計によると、北村韓屋マウルの訪問率は70.5%である。二番目に訪問率が高いのは南山韓屋マウルと、観光客への韓屋への興味がうかがえる。

図 1 伝統文化施設訪問形態



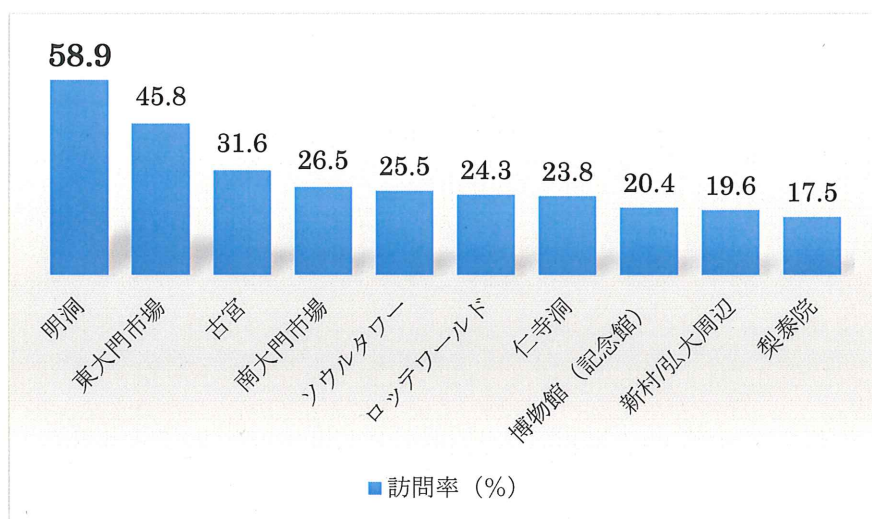
（出典：ソウル市庁「2013年ソウル外来観光客実態調査」より筆者作成）

¹ 上田篤・田辺修編『路地研究—もうひとつの都市の広場—』鹿島出版会、2013年、153頁。

「韓屋ステイ」という実際に宿泊できる韓屋を紹介しているサイトがある。韓国観光公社が10年ほど前に開設されたサイトである。このサイトは、韓国語・日本語・英語・中国語のページがあり、地図から地域を選択して、宿泊施設を検索できるようになっている。

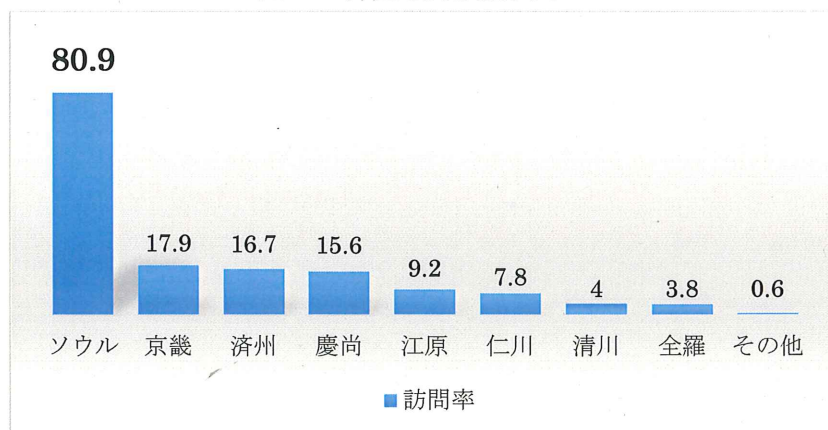
図2のグラフは、韓国旅行主要訪問地を表したものだ。これはすべてソウルに位置するものだ。図2のグラフからも予測できるように、韓国地方別訪問率のグラフ（図3）を見ると、ソウルは80.9%で、観光客はソウルに集中していることが分かる。

図2 韓国旅行主要訪問地



(出所：文化体育観光部「2013 外来観光客実態調査」より筆者作成)

図3 韓国地方別訪問率



(出所：文化体育観光部「2013 外来観光客実態調査」より筆者作成)

以上のことから、韓屋の注目度が高まってきていることと、観光客はソウルに集中しているということが言えるだろう。韓国の地方には数多く韓屋が残されている。韓屋への注目度の高まり

と地方観光を結びつけることで、ソウルに1、2度訪れただけで韓国旅行を終わりにしてしまっている人をリピーターとして地方に誘致することができると考えた。なぜ、地方に足を運ばないのか、と考えると、原因は交通インフラや言語の問題が考えられる。では、どうすれば足を運ぶようになるだろう。それは、韓屋の魅力を知り、訪問先について知り、アクセスするための十分な資料があれば、足を運んでもらえらと考えた。

本研究では、対象となる2つのマウルの魅力や利便性など、インタビューや文献をもとに明らかにし研究していく。また、韓国ソウルに1、2度訪れたことのある日本人をターゲットとして、韓国の地方に訪れたいような論文にしたいと考えている。

1. ^{ハノク}韓屋について

(1) 韓屋の概要

^{ハノク}韓屋は韓国の伝統建築様式で建てた家屋のことをいう。上流層の住宅は瓦屋根でつくられ、中・下流層の住宅はわら葺屋根でつくられることが多かった。北方で発展した伝統的な床暖房方式であるオンドルと南方に由来する板張りの^{デチョン}大庁がひとつの建物の中に共存するのが特徴だ。また、写真1のように基壇が高くつくられており、地面の湿気を避ける構造となっている。韓屋は軒が深いため（写真2）、夏には高く上った太陽の日よけとなり、冬には低い太陽の日差しが部屋の奥まで射し、冷たい風が吹いても軒で遮られる。直射日光は差し込まないが、庭で反射した光が室内を間接的に照明するので明るい。

写真1 基壇が高い韓屋

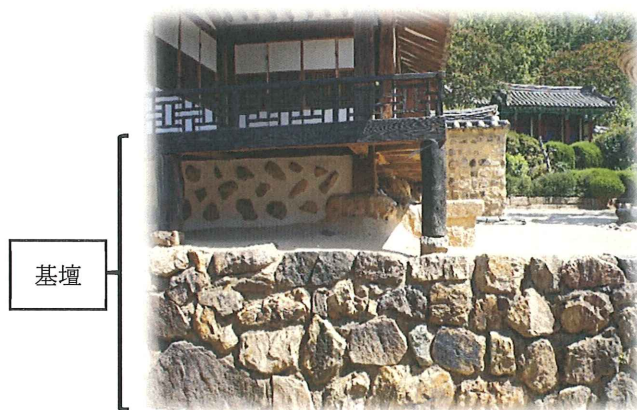


写真2 軒の深い韓屋



(2) オンドル

韓屋の一番の特徴ともいえるのがオンドルだ。伝統のオンドルの構造は図4のように、台所のかまどで炊事するときに生じた煙と余熱を床の下に敷いた煙道を通じて、床を暖め、床面から室内を暖める暖房方式である。床の構造は、床を張る前に、熱された空気が通る煙道を設け、薄い板石で煙道を覆う。その上に黄色い粘土を敷き、床を平らにし、最後に何層もの黄色い油脂を張り詰めてオンドルの床が完成する。床の上に直接座ったり、寝たりする習慣がある韓国人にとって床を暖めるオンドルは最適な住環境といえる。

オンドルの設備のある部屋のことをオンドル^{ベン}房という。オンドル房には長幼の序の礼儀と秩序があるといわれている。それは、オンドルの熱気が入ってくる部分で、最も暖かく上座とされているアレンモクと、熱気が出ていく部分で下座とされるウィンモクがあるためだ。年配の人や来客などはより暖かい場所に座るように勧めることで敬意を示していたそう。

図4 伝統的なオンドルの構造

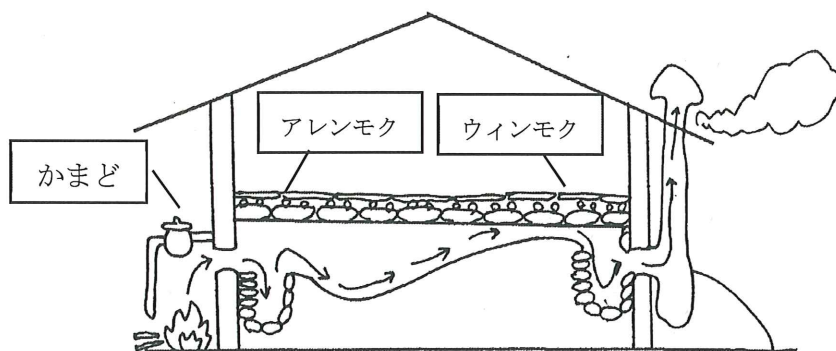


写真3 かまどではなく直接火をたく方式



(3) 対象地の選定

前述のような特徴をもつ韓国の伝統家屋である韓屋が密集している地区のことを韓屋マウルという。マウルは村という意味である。韓屋村ということがあるが、本論文では韓屋マウルということにする。

表 1 は文化財に指定された韓屋マウルを示したものである。この 7 か所のうち良洞マウルと河回マウルは「大韓民国の歴史的村落」として 2010 年に同時に世界遺産に登録されている。本研究では、表 1 に示す民俗マウルのうち、世界遺産登録に同時に登録され、筆者自身が実際に訪問したことのある慶州・良洞マウルと安東・河回マウルを研究対象地として選定した。

表 1 韓屋マウルの主な所在地

マウル名	所在地
慶州良洞マウル	慶尚北道 慶州市 江東面 良洞里 94
安東河回マウル	慶尚北道 安東市 豊川面 宗家ギル 40 (豊川面)
樂安邑城マウル	全羅南道 順天市 樂安面 忠愍ギル 30
済州城邑マウル	済州道 西帰浦市 表善面 城邑里
高城旺谷マウル	江原道 高城郡 竹旺面 五峰里
外岩里民俗マウル	忠清南道 牙山市 松嶽面 外岩里
星州ハンゲマウル	慶尚北道 星州郡 月恒面



2. 慶州・良洞マウル

(1) 良洞マウルの概要と特徴

慶尚北道の慶州市内から 20 km 離れた雪蒼山^{ソルチヤンサン}の麓に広がるふもとに良洞マウルが広がる。(図 5) 「勿」の字形で走る 3 つの丘陵と谷川にある。驪江李氏と月城孫氏の二つの名家が 500 年以上共

存してきたマウルだ。^{ヤンバン}両班のマウルとして 150 軒あまりの韓屋が現存する。1984 年に重要民俗資料第 189 号に指定され、2010 年にはユネスコ世界文化遺産に登録された。

朝鮮時代の清廉潔白な官吏として知られる^{ソンジュンドン}孫仲墩 (1463～1529) や、性理学者の^{イオンジョク}李彦迪 (1491～1553) を輩出し、知識人を多く輩出したことで知られている。村が丘に沿って形成されており、高いところには上流階級が住んでいた瓦屋根の家があり、平地に行くほどわら葺屋根の家がある。良洞マウルは、山と 4 つの谷と 2 つの屋根、そして川のほりという風水的にも好条件のところに位置する。

図 5 良洞マウルの位置



(2) 観光地としての良洞マウル

本節では観光地としての良洞マウルの交通面と言語面の利便性や特徴についてまとめる。

図 6 はソウルから良洞マウルまでのアクセス方法を示したものだ。KTX というのは韓国の新幹線のようなものである。KTX でなくても高速バスで市外バスターミナルまで行くことも可能だが、筆者が実際に良洞マウルまで行った際に使った経路を示した。市外バスターミナルから良洞マウル内まで入るバスが 203 番の 1 本のみの運行であった。203 番のバスは 1 日 10 回、90 分に 1 本走っている。それ以外のバス (200～208, 212, 217 番) はマウルまで徒歩 20 分を要するため、マウルまでの道が分からないと不便である。

言語面では、観光案内所が新慶州と市街バスターミナルの近所にあるが、英語か韓国語での対

応となっていた。しかし、日本語のパンフレットは多数置いてあるため、資料を集めることはできる。マウル内に日本語・英語・中国語・韓国語のガイドが常駐しているため、丁寧に案内してもらうことができる。また、マウルの入り口には良洞マウル文化館という無料の資料館（写真 4）がある。マウル内にある韓屋の模型や映像資料が豊富で、無料とは思えないほど充実していた。映像資料も、日本語・英語・中国語・韓国語があるため、写真 5 のような、画面の横にあるボタンを押して詳しい説明を聞くことができる。

図 6 ソウルから良洞マウルまでのアクセス

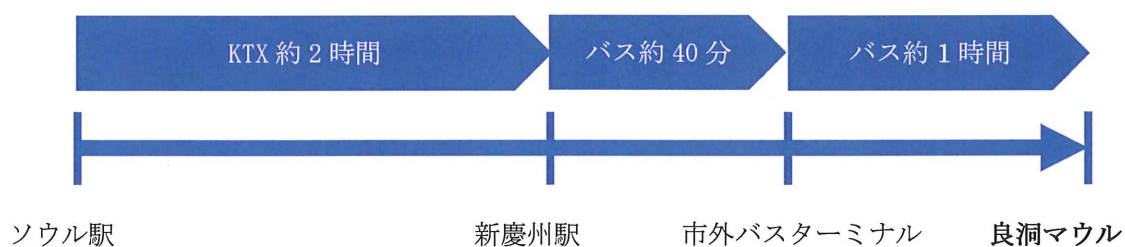


図 7 入場料（単位：ウォン）と券売時間及び観覧時間

区分	個人	団体 (30人以上)	備考		夏期	冬期
大人	4,000	3,400	65歳未満	券売時間	18 : 00	17 : 00
青少年・軍人	2,000	1,700	中・高校生、軍人	観覧時間	19 : 00	18 : 00
子供	1,500	1,200	小学生			

写真 4 良洞マウル文化館外観



写真 5 映像資料言語選択ボタン



(3) インタビュー

インタビューでは、良洞マウルを筆者が見て回り疑問に感じたことや、韓屋に実際に住みながら感じる韓屋の魅力や不便だと感じることを、ユネスコ登録による影響などをマウルに住んでいる方に伺った。慶州良洞マウル専門解説士であるイ・ナグオンさんにお話を伺うことができた。イ・ナグオンさんは1954年生まれで、生まれてから20年以上良洞マウルに住んでいた。就職のため大邱へ移ったが、去年の3月このマウルに帰ってきたそうだ。今はマウルの解説士と民泊を営んでいらっしゃる。インタビュー内容の全文は補足資料の章で掲載するとし、本節ではインタビューの内容でみえてきた良洞マウルの現状や魅力をまとめる。

11月中旬に筆者は良洞マウルを訪れた。11月にもなると、マウルの至るところでわら葺屋根の修理をしている人たちの姿(写真6)が見受けられる。作業をしている人はいずれも年配の方が多かった。修理は100%政府の支援を受けているという。良洞マウルに住んでいる60%が老人の一人暮らしであるため、オンドルは練炭を使って火を起こす人は少なく、ボイラーのオンドルを敷いているという。韓屋は壁や屋根、床などが土で出来ているため、土からの「気」によって体が元気になるとイ・ナグオンさんはおっしゃっていた。

ユネスコ文化遺産に登録されたことで、収入が得られるようになったことはもちろんだが、何よりも、マウルの知名度があがり、世界にマウルことを知ってもらえるようになったことがうれしいとおっしゃっていたのが印象的であった。

写真 6



安東河回マウル行きはこの 46 番バスのみの運行だ。常駐ではないが、マウルに日本人のガイドが 1 名いるため、事前にそのガイドがいるか確認してから訪問することをお勧めする。

図 9 ソウルから河回マウルまでのアクセス

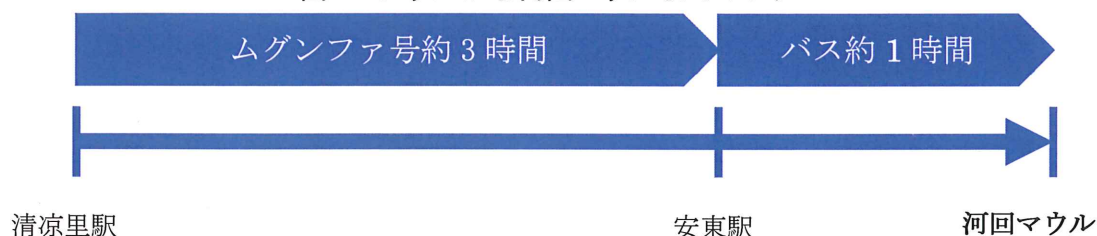


図 10 入場料（単位：ウォン）と入場時間

区分	個人	団体 (30人以上)	備考		夏期	冬期
				入場時間	9:00~19:00	9:00~18:00
大人	3,000	2,500	65歳未満			
青少年・軍警	1,500	1,200	満13歳～ 18歳			
子供	1,000	900	小学生			

(3) インタビュー

このインタビューでは、良洞マウルと同様に、河回マウルを筆者が見て回り疑問に感じたことや、韓屋に実際に住みながら感じる韓屋の魅力や不便だと感じる事、ユネスコ登録による影響などをマウルに住んでいる方に伺った。

河回マウル内で民泊を営むノ・オクチョムさんにお話を伺うことができた。ノ・オクチョムさんは 2009 年に豊山^{フンサン}から河回マウルに移住された。インタビュー内容の全文は補足資料の章で掲載するとし、本節ではインタビューの内容でみてきた良洞マウルの現状や魅力をまとめる。

良洞マウルと同様に、筆者は 11 月中旬に河回マウルを訪れた。わら葺屋根の修理をしている人たちの姿は河回マウルでも見受けられたため、同様の質問をした。ユネスコ文化遺産に登録されてから文化マウルとなったため、文化財庁が修理費用を負担してくれるという。ノ・オクチョムさんが住んでいる韓屋には、昔ながらの石のオンドルがあるが、その上に電気パネルの床暖房を敷いているとおっしゃっていた。良洞マウルと同様に、オンドルは練炭を使って火を起こす人は

少ないようだ。韓屋の魅力的なところは、やはり土で出来ているために、身体に良いところだとおっしゃっていた。また、不便なところは、良洞マウルでのインタビューでも同様に、室内にトイレとシャワーがないということだ。韓屋を改造して室内トイレを増築する人もいるようだが、それは韓屋の軒の美しいラインが損なわれることとなるため改造しない方が好ましいようだ。

ノ・オクチョムさんは民泊を営みながら、様々な国籍の人と交流ができ、マウルの魅力を話すことができてとても幸せだと何度もおっしゃっていたのが印象的であった。

終章

本論文では、韓国の伝統民家である韓屋が集まる韓屋マウルの魅力を探るとともに、韓国旅行のリピーターをターゲットとした地方観光の活性化を目的に、韓屋の概要から観光地としての韓屋マウルの現状などについて考察してきた。地方観光にまで足が伸びないのは、やはり標識などが韓国語だけのものが多かったり、交通が複雑であったりするためであろう。本論文ではそのような問題点を踏まえて、地方に訪れやすくなるように執筆することを心掛けた。しかし、何よりも実際に自分の足で現地を訪れてみるのが韓屋の良さ、地方観光の良さを知ることのできる方法である。実際にマウルを訪ねてみると、想像以上のものが待ち構えている。そういうことを肌で感じるができるのがまさしく「旅の醍醐味」であるといえるだろう。執筆するにあたり、マウルに実際に住んでいる方にお話をうかがえ、生の声を聞くことができたのは貴重な体験であった。本研究に際して、インタビューに協力してくださった、良洞マウルのイ・ナグオンさん、良洞マウル専門解説士のクォン・ヨンギさん、キム・ヨンイさん、安東マウルで民泊を営むノ・オクチョムさんに感謝の意を表す。

補足資料

【良洞マウルでのインタビュー内容】

Q: 修理をやっているのをみたが、業者に頼んでいるのか、住んでいる人が直接やっているのか。

A: 村の代表者がみて、修理をして、一年以内で何か問題があったら政府の支援がある。一年経ったら自費で修理をしなければならない。

Q: 修理するのにお金はどのくらいかかるか。

A: 100%お金を出してくれる。

Q: 韓屋は今でも火でやっているか。

A: 150戸中20戸くらいが火でやっている。年取ると、練炭を変えたり薪を集めたりするのが大変だから、ガソリン代が高くてほとんどボイラーで床暖房をやっている。60%は老人一人暮らし。練炭は一日に2~3回変えないといけないから大変。

Q: 韓屋のいいところは？

A: ボイラーで床暖房をしていたとしても、都市のアパートと比べると、韓屋は一戸建てで壁や床が土でできているため土の気を受けるから身体にとっても良い。大邱でずっと暮らしながら、週末に実家に戻ってきていたが、病院に行って点滴を打つより、マウルに来て2泊した方がもっと身体が楽になった。そのくらい土から出てくる気が重要だ。

民泊25戸あるが室内トイレがあるのは4戸。マウルのホームページに紹介されているのが13戸。

Q: 韓屋に住んでいて不便だと思うことは？

A: 室内にトイレがないこと。靴を履いて外に出ていかないとけない。小さいころは布団をかぶったまま外に出てきたからお化けだと思って怖がる人もいた。お客さんたちにはそうならないように、室内トイレを置いている。

Q: 後継者問題があると思うが、対策はあるか。

A: 対策はない。収入がない。これはどこのマウルに行ってもある問題。村の入り口に解説士の教育センターを作ろうという案は出てきたが、現実的ではないため実践できていない。

Q: 2010年のユネスコ登録以前と以後だと何か変わったことはあったか。

A: お客さんがたくさん来るようになって不便だ。果物とかを勝手にとって行ったり、人が住んでいる家にずかずか入ってきたりする。韓国人が多い。

Q: ユネスコ登録以後でいいことは何か。

A: 仕事ができること。入場料が入るし補助金もある。儒教の有名な人たちがこのマウルの出身だから、そのことが世界的に知られるきっかけとなったからよかった。風水的にもいい場所だし、朝鮮時代の遺物が残っていることを世界に紹介できるのはとてもいいことだ。

Q: 良洞マウル文化館などをみると、観光に力を入れているのが分かったが、観光地化することについてプラスに考えていらっしゃるのか。

A: もともと文化館は高く建てる計画があったが、高く建てるマウルの入り口かあらマウル全体を一目で見えなくなってしまうため、低く建てた。(実際2階建てで1階のみが資料館となっている。)文化

館を建てる場所がマウルの入り口以外にちょうどいいところなかった。山を削るということも、山も大切な遺産だからそうすることもできず、田んぼ地だったところに建てた。80～90%の田んぼがすべて孫さんのものだった。

Q: 安東河回マウルに行った際には仮面劇を定期的にやっていたが、良洞でもそういうプログラムがあるか。

A: 今は研究中。旧暦の1月15日の満月の日に綱引きをやる。良洞の特別な行事は特にない。

【河回マウルでのインタビュー内容】

Q: 修理をやっているのをみたが、業者に頼んでいるのか、住んでいる人が直接やっているのか。

A: 藁葺屋根は年に1回やらないといけない。瓦屋根は水が漏れてきた場合に補修をしないといけない。河回マウルの場合は、ユネスコ登録されてから文化マウルになったから、文化財省で費用は出してくれる。わら物を自分で作ったとしても費用は文化財省から出る。

Q: 韓屋は今でも火でやっているか。

A: 韓屋は外気の遮断があまりできないから、外が寒いと中も寒くなる。この家には昔のような石のオンドルはあるが、そのオンドルの上に電気パネルを敷いている。村にはボイラーの家もあるが、冬には管理が大変だし、経済的にも大変。電気パネルだと、寒い時すぐつけられてすぐ温まるから良い。

Q: 韓屋のいいところは？

A: 最近ではセメントでできた家が多いけど、韓屋は全部土でできた家だから、体に悪い物質が出てこない。換気がよくできる。昔の家なのに、ウェルビーイング住居環境といえる。部屋の二つの扉を開けると、換気がすぐできる。黄土でできているから人間にいい。

Q: この家はいつごろに建てられた？

A: 文禄の役の後にできた家だから、150年くらい経ったと思う。

Q: 韓屋に住みながら不便だと思ったことは？

A: 不便なこと多い。室内にトイレとシャワーがないこと。夏は大丈夫なんだけど、冬には扉を開けて外に出るのは寒い。ここは文化財だけど、もし私が違う韓屋に住んでいたら、室内にトイレを建てることはできただろう。でも、ここは、軒の線が綺麗。今でも家を改造して室内トイレを作る人がいるけど、それは違法だ。幹にセメントを塗ったりすることは、韓屋の美しさを損失させることだからやらない。

Q: 近所に病院があるか？

A: 保健所がある。ユネスコ登録以前からあったそう。7km地点にあるから、保健所もあるし、運転できない老人の場合は、119番に電話すれば来てくれる。この村は快適ですよ。

Q: 後継者問題が深刻か？

A: ここは売買権がある。個人所有権があるから、自分が売りたいと思ったら売って、買いたかったら買える。息子が3人いるけど、みんなこの家で住むつもりはないみたい。でも違う家は、待機している人がいる。子孫たちがその家に住むためにね。10年前くらいには老人ばかりだったが、

最近は退職してここに住む人が多くなったという趨勢。つまり、入ってくる人が多いということ。家が不足している状況。待機者が多い。

Q：ユネスコ登録以前と以後での違いは？

A：ユネスコ登録以前はこのマウルの人でも観光地に住む人としての姿勢が不足していた。なぜなら、観光客たちにも親切ではなかった。それには理由があって、私生活が保護されることがない。外国人たちは十分な資料を持って河回マウルの歴史を知って来ている。うちにくるお客さんも外国人が多くて不便だと思う状況があまりないが、むしろ韓国人にひどい目に合わされる。何も言わずに勝手に家に入ってくる。このマウルは個人所有権だということを分別できないようだ。勝手に入ってきて、トイレを室内に作れという概念の人が多い。入場料を出したのに、なんであなたたちは全部公開してくれないのかなどと文句を言ってくる。民泊をやっていない人たちにとっては、勝手に家に入ってきてこられてプライバシーを侵害されたら不親切になってしまうのはしょうがないことだけだね。

参考文献

- 張保雄 『韓国の民家』、佐々木史郎訳、古今書院、1989 年。
- 申栄勲 『韓国の民家』、金大壁写真、西垣安比古監訳、李終姫・市岡実幸訳、法政大学出版局、2005 年。
- 上田篤・田辺修編『路地研究—もうひとつの都市の広場—』鹿島出版会、2013 年。
- 李智喜、羽生冬佳「韓国の伝統集落の持続的な保護に向けた観光マネジメントのあり方—慶州良洞マウルと順天樂安邑城マウルの比較を通じて—」日本観光研究学会機関紙（2013）
- 金弘己「韓国全州市における韓屋地区の街並み変容と保存の研究—韓屋地区保存の経緯と建築規制の変遷過程—」日本建築学会学術講演梗概集（1999）
- 「2013 外来観光客実態調査」文化体育観光部（2013）
- 「2013 ソウル市外来観光客実態調査報告書」ソウル市（2013）
- 国立文化財研究所（韓国語）〈<http://www.nrich.go.kr/index.jsp>〉（2014/11/14 アクセス）
- 文化遺産研究知識ポータル（韓国語）〈<http://portal.nricp.go.kr/>〉（2014/11/14 アクセス）

ス)

- 文化財庁（韓国語）〈http://www.cha.go.kr/cha/idx/Index.do?mn=NS_01〉（2014/11/14 アクセス）
- キム・ヒョンジュ 「訪韓観光客の地方分散のための政策方案」、韓国文化観光研究院（韓国語）20012年7月、37-38頁、
〈https://www.kcti.re.kr/FileDownloadServlet.dmw?filePath=/var/apache/htdocs/webdata/newweb/report/file/02e923f7-32c7-4aaa-ac61-07abe8f4052e&fileName=%B1%E2%BA%BB%BF%AC%B1%B8%202012_07%20%B9%E6%C7%D1%20%BF%DC%B7%A1%B0%FC%B1%A4%B0%B4%20%C1%F6%B9%E6%BA%D0%BB%EA%CO%BB%20%CO%A7%C7%D1%20%C1%A4%C3%A5%B9%E6%BE%C8_%B1%E8%C7%F6%C1%D6%5B1%5D.pdf〉（2014/08/15 アクセス）
- 安東観光情報センター（韓国語）〈<http://www.tourandong.com/coding1/sub5/sub4.asp>〉（2014/08/16 アクセス）
- 安東河回村（韓国語）〈<http://www.hahoe.or.kr>〉（2014/08/23 アクセス）
- 韓国観光公社公式サイト〈http://japanese.visitkorea.or.kr/jpn/CU/CU_JA_2_1_5_2.jsp〉（2014/08/23 アクセス）
- 慶北 慶州良洞村（韓国語）〈<http://yangdong.invil.org>〉（2014/08/24 アクセス）